

誰もが抱える悩みをパワッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
本社運営部長
福田 貴一

子どもたちが学習を継続するために「すべきじゅ」で「きんじゅ」

日々の生活のなかで「何かをやり続ける」「継続して取り組む」のはとても難しいことです。なかでも「やる気」の継続は、子どもはもちろんのこと、大人でも難しいことのひとつではないでしょうか。低学年から準備を始める傾向が強まってきた中学受験。この長期にわたる準備期間を、子どもたちに継続して学習させるためにはどうすれば良いのか、考えてみましょう。

「やる気」を継続させる。しかし、

中学受験を考えたその日から、「受験当日まで頑張って勉強してほしい」と保護者の皆様が願われるのは当然のことです。しかし、子どもだけでなく大人でさえも「やる気」を継続させるのは難しく、場合によっては「瞬間」に失うこともあります。このように不安定な「やる気」だからこそ、子どもたちに常に「頑張ろう」と思わせるには、周りの大人からの「しかけ」が重要になります。

たとえば塾の宿題。取り組む期間が一週間あっても、一度に多くの宿題が出されると、まだ自分で進められない子どもの場合、その量に圧倒されてしまい、「やる気」を失ってしまうことがあります。そんな子どもに「やる気」を継続させるための「しかけ」、それは「学習計画表」です。まず、宿題が出た時点で、子どもと一緒に「一日に取り組む量」を決めます。あとは毎日「学習計画表」に従って進めれば、一週間後にはしっかりと宿題を終わらせることができます。このように自分で立てた学習計画表に沿って学習する習慣が身につけ



ば、子どもたちは「やる気」を失うことはないでしょう。

勉強する楽しさを感じさせましょう！

中学入試は、高校入試や大学入試に比べ、準備期間が長くなります。この準備期間が長いことを活用し、勉強することそのものを習慣にしていまじょう。実は、この習慣づけこそが、子どもたちに学習を継続させることにもつながるのです。

継続して勉強すれば必ず結果が出ます！

なものを子どもに課しているような気持ちになり、後ろめたさを感じてしまうことがあるのかもかもしれません。実は、この後ろめたさやマイナスイメージがそのまま子どもたちに伝わってしまいやすく、特に理由なく子どもたちは「勉強＝辛いもの」と感じてしまう可能性があるのです。そんなことにならないよう、まずは、保護者の方が勉強に対するマイナスイメージを持たないということが、「これもひとつのしかけ」になります。

「やる気」を継続させるためには「言葉がけにも注意しまじょう」

子どもの「やる気」を継続させようとするとき、絶対に言わないNGワードがあります。それは、「じつも○○」「一度も○○」など、初めから決めつけてしまっような言葉です。

言った方からすると、何気なく出た言葉かもしれませんが、言われた例は「今やろうと思っていたのに」と、やる気を失い、場合によっては、こづらさを困らせるような行動を取ることもあります。「うっかり言ってしまった」などと後悔しないためにも、注意したいものです。

反対に、子どもたちが発した言葉で、絶対に許してはいけないものに「今日だけ」があります。たとえば「今日は、運動会で疲れたから勉強は止めよう」と言ったり、「今日は、急に友達が訪ねてきたから後にしよう」と言ったり「今日の分は明日やればいい」と言ったり。これは誰でも経験があると思いますが、計画と異なる行動を許してしまったり、「やる気」を継続させることがとても難しくなります。

もちろん、計画を立てる際に、「学習をしない日」を作ったのであれば、大きな問題はありませぬ。計画を立てたのに、何かを理由にやらないことが問題なのです。

子どもたちが「やる気」を継続できない原因は大きく分けて2つあります。

ひとつは「すぐに結果が出ないこと」です。どんなに頑張ったとしても、結果がすぐ表れることはほとんどありません。成績というものは、勉強した内容や経験を蓄積していくことにより、あるきっかけで、ぐんと伸びるものだからです。その一番大きなきっかけは、「精神的成長」と言われています。

また成績というものは、右肩上がりに伸び続けることはほとんどなく、多くの子どもが停滞期を経験します。実は、この停滞期にどれだけ継続して学習内容を貯蓄することができるか、これが勝負の決め手になります。停滞期に蓄積された量が多ければ多いほど、次の成績の伸び幅が大きく変わるからです。

とはいっても、伸びる時期は子どもによって様々で、いつ来るかはわかりません。また、伸び方も、小刻みに伸びる子どももいれば、一気に伸びる子どももいます。しかし、どんな伸び方をにしても、「どれだけ我慢して、辛抱強く継続して勉強できたか」、これがポイントになります。

そして、「やる気」を継続できないもうひとつの原因は「学習の邪魔をするもの(ゲーム・漫画・テレビ・お菓子おしゃべりなど)」の存在です。この勉強の「やる気」を削ぐような誘惑に負けないようにするために、計画に従って行動する習慣を身につけることが極めて重要です。ポイントとしては、習慣のなかで「ある程度決められた行動」をすることです。どんな些細なことでも構いません。たとえば、毎朝の行動パターン(起きる→歯を磨く→ご飯を食べる→計算問題10問「タイムを測る」→着替える→登校するなど)を決めてみてください。学習習慣は、生活リズムを整えなければ身につけません。そのため子どもたちが楽し

というのも、小学校1年生から4年生くらいまでの間は、学ぶことそのものが楽しいと感じている子どもが多く、特に「掛け」をしなくても、多くの子どもが自分から進んで学ぼうとします。その結果、「勉強すること＝楽しい」という感覚が身につくとき、5、6年生になって勉強に割く時間が多くなっても、自然と「進歩」することができるのです。すなわち、勉強する楽しさこそが、「やる気」を継続させるきっかけになるのです。

大人たちが子どもたちに「マイナスイメージを植え付ける!？」

保護者の皆様の中には、「勉強や学習、テストは嫌なもの」と、マイナスイメージを持たれている方もいらっしゃるかもしれません。これは、ご自身が高校生や大学生時代に経験した「定期テスト前の勉強が大変だった」という強い思いが残っているからではないでしょうか。

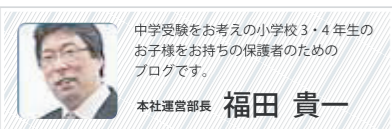
このようなマイナスイメージを持っている保護者の方が子どもに勉強させようとしたとき、自分が嫌々継続できるような習慣作りが大切なのです。つまり、「やる気」を継続させるためには、ゴールを定め、たうえで、期限(いつまでに)と中間目標(どんな経過で)を決め、公表(宣言や掲示により家族や友だちなどと共有)することがポイントになります。これこそが、成功するための3要素です。

最大のエネルギーは家族の応援

中学受験をするかどうかなど、ある程度進路についての方向性が決まれば、あとは家族全員で応援してあげてください。たとえば、どんなに小さな目標でも、達成すれば一緒に喜びまじょう。そんな成功体験の積み重ねが前に進む大きな原動力になります。反対に、悲しみは一連続トラウマになる可能性があります。できないときは、「なぜできないの?」「と問い詰めるのではなく、原因を一緒に考え、具体的な解決策を探すようしまじょう。

子どもたちには数えきれないほどの可能性がありますが、ぜひ、その可能性を信じて、保護者の皆様は、その一番の応援者になってあげまじょう。

ブログ 四つ葉cafe 公開中!



早稲田アカデミーホームページにて公開

中学受験に関するブログを公開しております。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関する様々な情報をお伝えします。

詳細はホームページをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索